

当院における精神科との連携についての報告

医療法人衆和会 長崎腎病院 長崎腎クリニック

藤原久子 林田めぐみ 丸山祐子 澤瀬健次 佐々木 修 一ノ瀬浩 橋口純
一郎 原 健二 原田孝司 船越 哲

【はじめに】

透析施設においては、多くの患者が精神的な問題を抱えているため、精神科との連携は大変重要である。当院では、かつて良好な関係が得られていた特定の精神科医院が突然閉院し、新たな精神科医との連携を構築する経験をしたので、経緯を報告する。

【当院における具体的な取り組み】

(1) まず地域連携室・医師・看護師長らが、当院の地域における使命の元に、地域精神科医院の立地条件・バリアフリー等を調査し、精神科医を選定した。(2) 実際に患者を紹介した。(3) 本格的な連携目的のため、当院院長以下スタッフで精神科医を訪問し、当院の特徴・社会的使命・問題点等をアピールした。(4) 精神科医からの往診などを含めた連携プランを提示した。(5) 連携プランをより連携が取りやすい様に数回調整を行った。

【結果】

上記の経過を経て、現在では精神科医との円滑な連携が行われており、患者と精神科医との信頼関係も構築されつつある。

【まとめ】

精神科との連携の基礎となるものは、自院の理念や基本方針に立ち返りって使命を再認識し、何より精神科医に我々の熱意を持ってアプローチする事と考える。

(475 字) 抄録文章が 600 字、題名や発表者名を含みません。